

自らの闘いによって

10/22 津田沼支部・第9回定期大会

自らの未来を切りひらこう

日刊 動労千葉

86. 11. 14

No. 2406

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二二七二〇七

労働者として、人間としての魂を守りぬき闘いぬく

※※※※※

十月二二日、動労千葉・津田沼支部は、「全組合員・家族の団結を打ち固め、国鉄労働運動解体攻撃粉碎、十万人首切り阻止へ、第三波ストを目指し総反撃にうつて出よう！」のスローガンのもとに第九回支部定期大会を開催した。

※※※※※

「どんな困難な時も動労千葉の
最先頭で闘ってきた」

支部大会は、二十日からの第一波順法闘争をうちぬいた熱気のなかで、六〇名の組合員が参加。参加者全員の熱心な議論をおし、満場一致闘う方針を決定、綾部支部長をはじめとした新執行体制を確立した。

浜野委員を議長に選出の後、冒頭あいさつにたった山下支部長は「津田沼支部は、どんなに困難なときも常に動労千葉の最先頭にたつて、血を流しながらも闘いによって情勢を切りひらいてきた。十万人の首切りという理不尽な現在の攻撃に対してもわれわれは、二波のストライキをうちぬいたがゆえに今日の団結を維持し、全国の国鉄に働く仲間的心をとらえ、国労修善寺大会の誰も予側もしなかった国労の仲間の決定をつくり出すことができた。この一年間の闘いの勝利を全組合員が確認しよう。そして、これからむかえようとしている最大の決戦に対しても全組合員の怒りと強固な団結力を結集し、自らの闘いによって自らの未来を切りひらこう」と提起し、大会でかちとるべき課題を鮮明に訴えた。

「皆んな歯をくいしばって
がんばりぬいている」

来賓のあいさつでは、本部布施書記長が、国鉄をめぐる情勢について提起し、さらに船橋市議・中江さんがあいさつにたつた。

質疑では「人活センター」からの報告や、物販で全国をめぐる歩いて肌で感じた動労千葉への期待の声の報告、新執行体制を確立した国労の動きについて、順法闘争については、とりわけ闘いの渦中にあるだけに意見が集中し、「マスコミの反動キャンペーンのなかで順法をやりぬくことは、スト以上に変な闘い、組合員はみんな歯をくいしばってがんばりぬいている」「第一波順法をやってみて戦術としてはスト以上に当局に対してダメージを与えていると実感した」等々活発な議論をおし、翌週からの第二波順法へのより強固な総決起体制がうち固められた。



「来年もこの場で

支部大会をひらこう」

最後に、浜野議長から「この団結を守りぬき、勝利して来年もこの場で盛大な支部大会を開催しよう」との発言をうけて大成功のうちに終了した。われわれは、何の道理もない、ただひたすら理不尽な攻撃によって十万人もの国鉄労働者の首切りを断じて認めるわけにはいかない。とすれば、われわれには労働者として、人間としての魂を守りぬき闘いぬく以外に他の道はない。そして、闘いを貫くとき必ず勝利への道は切りひらかれることに確信をもつて前進しようではないか。

△新たな執行体制▽

支部長	綾部 光男	四〇	電運士
副支部長	重見 敏夫	四〇	〃
書記長	田中 康宏	三〇	運修係
書記次長	高石 正博	四一	電運士
執行委員	椿 勇三	三六	〃
〃	川口 春男	三九	〃
〃	高橋 邦彦	四〇	〃
青年部長	川崎 昌浩	二七	運修係

津田沼支部通信員（発）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！